

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-238464
(P2002-238464A)

(43)公開日 平成14年8月27日(2002.8.27)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコ-ト*(参考)
A 2 3 K 1/00		A 2 3 K 1/00	B 2 B 0 0 5
1/10	1 0 1	1/10	1 0 1 2 B 1 5 0
1/18		1/18	A

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 4 頁)

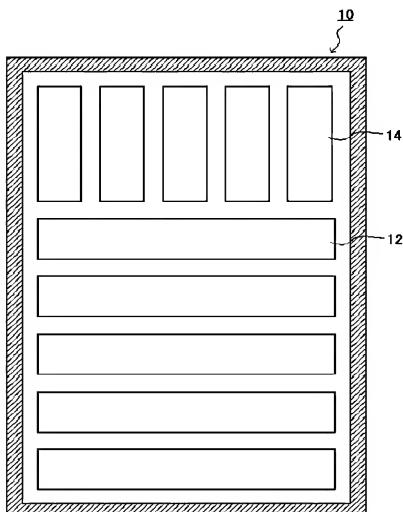
(21)出願番号	特願2001-37973(P2001-37973)	(71)出願人	383000283 ユニ・ハートス株式会社 東京都品川区西五反田7丁目20番9号
(22)出願日	平成13年2月15日(2001.2.15)	(72)発明者	坂地 君彦 東京都品川区西五反田7丁目20番9号 ユ ニ・ハートス株式会社内
		(72)発明者	井上 一典 東京都品川区西五反田7丁目20番9号 ユ ニ・ハートス株式会社内
		(74)代理人	100098143 弁理士 飯塚 雄二 Fターム(参考) 2B005 AA02 AA04 2B150 AA06 AB04 AE02 CD15

(54)【発明の名称】 ペットフード

(57)【要約】

【課題】 ペットが毎日の餌(食事)を飽きることなく、必要量を摂取するという要求に応えることのできるペットフードを提供すること。

【解決手段】 2種類以上の異なる食材を各々個別の包装体に収容する。そして、これら複数の包装体を单一の包装容器に収容する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】2種類以上の異なる食材を各々個別の包装体に収容し、これら複数の包装体を单一の包装容器に収容することを特徴とするペットフード。

【請求項2】前記食材は副食材であり、

前記副食材とは別に包装された主食材を前記包装容器に収容することを特徴とする請求項1に記載のペットフード。

【請求項3】前記主食材は、ドライタイプのペットフードであることを特徴とする請求項2に記載のペットフード。

【請求項4】前記ペットフードは、猫用であり、前記副食材は、少なくとも魚の削り節を含むことを特徴とする請求項2又は3に記載のペットフード。

【請求項5】1日又は1回分の食事に合わせて、前記主食材と副食材の包装体の数を設定することを特徴とする請求項1, 2, 3又は4に記載のペットフード。

【請求項6】5種類以上の異なる副食材を各々個別の包装体に収容し、

ドライタイプの主食材を前記副食材とは異なる包装体に収容したものを前記副食材と同数用意し、前記副食材と主食材の包装体を同一の包装容器に収容したペットフードであり、

前記主食材と副食材の包装体は、1日又は1回分の食事に合わせた量を収容していることを特徴とするペットフード。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はペットフードに関し、特に、使用する食材の組み合わせ方や、収容の仕方を工夫したペット用ドライフードに関する。

【0002】

【従来の技術】現在市販されているペットフードとして、水分量の多いウェットタイプと、水分量の少ないドライタイプがある。ドライタイプのペットフードは、取り扱い易さや、保存性の良さ等のメリットがある。反面、ドライタイプのペットフードはウェットタイプに比べて嗜好性が低く、ペットが飽きて十分な量を食べなくなることがある。

【0003】そこで、特開平10-14501号公報に示された発明においては、ドライタイプのキャットフードと削り節とを格別に分包して、同一包装容器内に収納している。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、特開平10-14501号公報に示された方法でも、結局は毎日同じメニューとなるため、ペットが飽きてしまい、日が経つに連れて十分な量を食べなくなってしまう。

【0005】本発明は上記のような状況に鑑みて成されたものであり、ペットが毎日の餌(食事)を飽きることなく、必要量を摂取するという要求に応えることのできるペットフードを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、請求項1に記載の発明においては、2種類以上の異なる食材を各々個別の包装体に収容する。そして、これら複数の包装体を单一の包装容器に収容する。

【0007】請求項1に記載の発明によれば、食材が2種類以上あるため、毎日同じメニューとなるという事態を回避でき、ペットが飽きずに食事をとることができる。

【0008】請求項2に記載の発明においては、前記食材を副食材とし、当該副食材とは別に包装された主食材を同一の包装容器に収容する。この様態によれば、毎回違う種類の副食材をふりかけ等の感覚で主食材と共に与えることができる。また、主食材と副食材を同一包装容器に収容することにより、その都度メニューを考えてペットに与える場合に比べて、飼い主の手間が軽減される。

【0009】請求項3に記載の発明においては、主食材はドライタイプのペットフードである。ウェットタイプに比べてドライタイプのペットフードは、ペットが飽きやすいため、本発明の効果が更に顕著に現れる。

【0010】請求項4に記載の発明は、猫用のペットフードであり、副食材として、少なくとも魚の削り節を含む。猫は、魚の削り節を好む傾向にあるため、猫の食欲(嗜好性)を効果的に向上させることが出来る。

【0011】請求項5に記載の発明においては、1日又は1回分の食事に合わせて、主食材と副食材の包装体の数を設定する。例えば、主食材及び副食材ともに1日分毎に小分けして包装することにより、飼い主は食事の量などを考える必要が無く、容易に餌を与えることが可能となる。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施例について、猫用のドライフードを例にとって説明する。なお、本発明は、使用する食材を工夫することにより、猫用に限らず他のペットの餌にも適用可能である。また、包装容器の形態を工夫することにより、ドライフードに限らずウェットタイプのペットフードにも適用可能である。

【0013】図1は、本実施例に係る猫用ドライフードのパッケージ構成を示す。図示の通り、パッケージ10は、主食用の包装体12を5個と、副食材用の包装体14を5個収容する。主食用の包装体12と副食材用の包装体14の数は5個に限定されないが、同一数とすることが好ましい。

【0014】本実施例によれば、毎回違う種類の副食材をふりかけ等の感覚で主食材と共に与えることができる。また、主食材(12)と副食材(14)を同一包装容器(10)に収容することにより、その都度メニュー

3

を考えてペットに与える場合に比べて、飼い主の手間が軽減される。

【0015】本実施例においては、猫1日分の主食材12(60g)の数と同数の副食材14を用意する。主食材(ドライフード)12を1食分の個包装とすることにより、食事量の調整が容易となる。副食材(おかず)14の与え方としては、以下のような態様が考えられる。

1. 主食材(ドライフード)に振りかける。
2. 主食材(ドライフード)と混ぜる。
3. 主食材(ドライフード)を与えている間に、おかずとして与える。
4. 主食材(ドライフード)による食事とは別時間におやつとして与える。

【0016】本実施例においては、猫の体調、食欲、生活リズム、機嫌などに合わせて、飼い主がおかずの種類や与え方(食事方法)を決めることができる。

【0017】なお、本発明は、必ずしも主食材(12)を副食材(14)と同一のパッケージに収容する必要はなく、各々別の箱に収容してもよい。要は、2種類以上の異なる食材を各々個別の包装体(14)に収容し、これら複数の包装体(14)を單一の包装容器(10)に収容することにある。これによって、毎回異なる種類の食材(メニュー)をペットに与えることができ、ペットが飽きることなく食事をとることができ。

【0018】本発明の前提として、ペットの「食べ飽きる」実態についてテストを行った。このテストでは、猫10匹のグループを2つ作り、各グループ毎に飼料A、飼料Bを各5日間給餌し、その摂取量を測定した。飼料Aは、主食粒(ドライフード)に日々に種類を変えたおかずを混ぜたものを使用し、飼料Bとしては主食粒(ドライフード)のみを使用した。その結果を図2及び図3に示す。図に示すように、飼料Bでは日々経つにつれて摂取量の低下が著しいが、飼料Aの場合には摂取量の低下は観察されなかった。

【0019】本実施例においては、以下のような配合の材料をエクストルーダーにより成形してドライフード(主食材)12を生産する。

- (1) トウモロコシ 51. 2%
- (2) 肉骨粉 27. 0%
- (3) 脱脂大豆 10. 0%
- (4) 油脂類 9. 0%
- (5) ビタミン類 0. 3%
- (6) ミネラル類 2. 5%

【0020】猫用ペットフードに最適なおかず食材(副食材)を選別すべく、幾つかの食材について嗜好性のテストを行った。テストに使用したサンプルは以下の通りである。

- (1) 鰯殻: 厚さ0. 01mm~0. 60mm、巾0. 5mm~10. 0mm、長さ0. 5mm~50. 0mm
- (2) 小魚乾燥品: 長さ10. 0mm~45. 0mm

(3) しらす乾燥品: 長さ5. 0mm~30. 0mm

(4) 鮭乾燥品(フレークタイプ): 辺長1. 2mm~

15. 0mm

(5) エビ乾燥品: 長さ10. 0mm~30. 0mm

(6) 海苔乾燥品: 厚さ0. 05mm~0. 40mm、巾2. 0mm~20. 0mm、長さ2. 0mm~20. 0mm

【0021】上記のテストの結果、猫については、魚類乾燥品(飼料A)に比べて海苔乾燥品及びエビ乾燥品(飼料B)の嗜好性が低かった。

【0022】本実施例においては、上記のようなテスト結果を考慮し、猫が好む魚乾燥品を組み合わせておかず素材(副食材)を作る。おかずの量は、主食の栄養バランスを崩さず、かつ高い嗜好性を維持できる量として、ドライフード60gに対して4. 0~5. 0g程度とすることが好ましい。また、おかずの種類は、食べ飽きることを考慮に入れて、最低5種類(5日分)とする。

【0023】おかず(副食材)としては、例えば、以下のような組み合わせが考えられる。

- (1) かつお節薄削り1. 0g+小魚乾燥品3. 0g
- (2) かつお節薄削り1. 0g+しらす乾燥品3. 0g
- (3) かつお節薄削り1. 0g+鮭乾燥品3. 0g
- (4) かつお節粗削り1. 5g+しらす乾燥品3. 0g
- (5) かつお節粗削り1. 5g+小魚乾燥品3. 0g
- (6) 小魚乾燥品2. 0g+しらす乾燥品3. 0g
- (7) 小魚乾燥品2. 0g+しらす乾燥品3. 0g+鮭乾燥品1. 0g

【0024】なお、おかずの品質劣化(香りの飛散・酸化)を防止するために、副食材用の包装体14に対して、不活性ガス(窒素)置換充填処理を施すことが有効である。また、包装材としては、不活性ガス置換充填の効果を維持できる高いバリア性を有する材質を使用する。

【0025】以上、本発明の実施の形態について説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、特許請求の範囲に示された技術的思想の範囲内で適宜設計変更可能であることは言うまでもない。

【0026】

【発明の効果】本出願の請求項1に記載の発明によれば、食材が2種類以上あるため、毎回違う種類の食材(メニュー)をペットに与えることができ、ペットが飽きずに食事をとることができる。

【0027】請求項2に記載の発明によれば、毎回違う種類の副食材をふりかけ等の感覚で主食材と共に与えることができる。また、主食材と副食材を同一包装容器に収容することにより、その都度メニューを考えべつに与える場合に比べて、飼い主の手間が軽減される。

【0028】請求項3に記載の発明によれば、本発明の効果が更に顕著に現れる。また、請求項4に記載の発明によれば、猫の食欲(嗜好性)を効果的に向上させるこ

とが出来る。

【0029】更に、請求項5に記載の発明によれば、飼い主は食事の量などを考える必要が無く、容易に餌を与えることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、実施例にかかる猫用ドライフードのパッケージ構成を示す概略平面図である。

【図2】図2は、本発明の前提となる猫の嗜好性実態テストの結果を示す表であり、飼料Aに対するデータを示

す。

【図3】図3は、本発明の前提となる猫の嗜好性実態テストの結果を示す表であり、飼料Bに対するデータを示す。

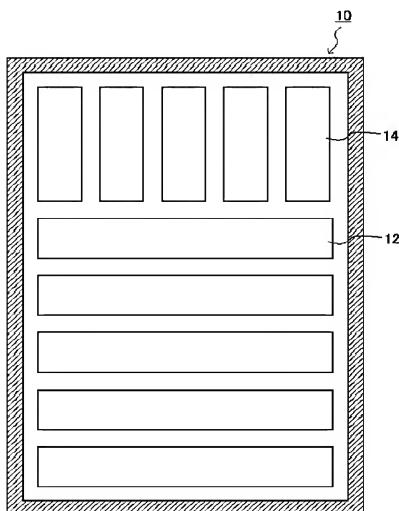
【符号の説明】

10 猫用ドライフードパッケージ

12 主食材（ドライフード）用包装体

14 副食材（おかず）用包装体

【図1】



【図2】

飼料A

No.	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	合計
1	33	32	39	35	41	180
2	75	85	79	62	83	384
3	56	49	47	62	61	275
4	95	99	111	98	105	508
5	95	95	100	97	111	498
6	58	63	69	58	52	300
7	109	128	124	120	121	602
8	62	69	81	64	69	345
9	42	36	41	57	54	230
10	71	67	75	77	67	357
合計	696	723	766	730	764	3679

【図3】

飼料B

No.	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	合計
1	98	109	120	82	85	494
2	100	110	107	83	84	484
3	72	69	66	55	58	320
4	101	80	98	84	81	444
5	81	88	66	67	65	367
6	80	86	77	69	73	385
7	98	77	54	64	60	353
8	57	60	53	47	51	268
9	35	41	34	46	53	209
10	41	53	46	34	35	209
合計	763	773	721	631	645	3533

PAT-NO: JP02002238464A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002238464 A
TITLE: PET FOOD
PUBN-DATE: August 27, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SAKACHI, KIMIHIKO	N/A
INOUE, KAZUNORI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
UNI HARTS KK	N/A

APPL-NO: JP2001037973

APPL-DATE: February 15, 2001

INT-CL (IPC): A23K001/00 , A23K001/10 ,
A23K001/18

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a pet food capable of meeting the requirement of ingestion of required amount without pet's losing interest in the daily feed (meal).

SOLUTION: Two or more kinds of different food materials are stored in each individual packaging body, and the plural packaging bodies including

the food materials are stored in a single packaging container.

COPYRIGHT: (C) 2002, JPO